

Depictions of "Laughter" and "Fear": The Illustrated World of *Shunga & Yōkai*

細見美術館



日文研コレクション

描かれた「わらい」と「こわい」展
— 春画・妖怪画の世界 —

2018年10月16日(火)～12月9日(日)〈展示替有り〉

〈1期〉10月16日(火)～10月28日(日) 〈2期〉10月30日(火)～11月11日(日)
〈3期〉11月13日(火)～11月25日(日) 〈4期〉11月27日(火)～12月9日(日)

18歳未満入館不可 <http://www.emuseum.or.jp>

描かれた 「わらい」と 「こわい」展

— 春画・妖怪画の世界 —

2018年10月16日(火)
～12月9日(日)〈展示替有り〉

入館料：1,500円(1,400円)

※○内は20名以上の団体料金

※18歳未満入館不可。

年齢のわかるものをご提示頂く場合があります。

[プレイガイドチケット1,400円]

販売期間 10月16日～12月9日

販売窓口 京都新聞文化センター・取扱プレイガイド
(セブンチケット・ローソンチケットLコード57591)

[前売チケット1,300円]

販売期間 9月6日～10月15日 ※美術館は10月8日迄

販売窓口 美術館・京都新聞文化センター・

上記取扱プレイガイド

開館時間：午前10時～午後6時

ただし、毎週土曜日は午後8時まで開館

(入館は閉館の60分前まで)

休館日：毎週月曜日

主催：細見美術館 国際日本文化研究センター 京都新聞

広報協力：MBS

協力：青幻舎プロモーション

会場：細見美術館 京都市左京区岡崎最勝寺町 6-3



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

「博物館・展示を活用した最先端研究の可視化・高度化事業」

休館のお知らせ：

12月10日(月)より館内メンテナンスのため
休館いたします。

次回展予告：

2019年春 石本藤雄展

展覧会の最新情報等は、ホームページを
ご覧ください。



A



B

中世から近世にかけて、日本人は絵巻や浮世絵で日常のなかの目に見えるもの、あるいは形なきものを視覚化してきました。日常の「表と裏」、「この世とあの世」。そこには今以上に境目がいまな世界が広がっています。本展覧会では、「わらい」と「こわい」という一見相反するテーマのもと、国際日本文化研究センター（日文研）所蔵の妖怪・春画コレクションをながめ、恐怖と笑いが地続きで繋がる前近代の豊かな日常をみていきたいと思ひます。日文研は、1987年に日本文化に関する国際的・学術的な総合研究と世界の日本研究者に対する研究協力・支援を行うことを目的に設置され、妖怪画や春画の収集・保存を進めてきました。これらの資料は日本文化を考える上で欠かせない要素であるにもかかわらず、これまで学術的に扱われることがほとんどありませんでした。

近年、民俗学、美術史、社会史など多様な視点から再発見、再評価の動きが起こっています。本展覧会では、日文研が現在所蔵する妖怪画・春画のコレクション750余点のうち、精選した約150点を紹介いたします。日文研コレクションを本格的に展観する初めての機会となります。

表：上下：[英一雄]「妖怪絵巻」(部分)／円内右：初代歌川豊国「絵本開中鏡」(部分)／円内左：鈴木春信「風流座敷八景」(部分)／裏：A 磯田湖龍斎「排難女夫まねもん」(部分)／B 真野晩亭「東都千社納札大会披露」(部分)／CD 北斎季親「化物尽絵巻」(部分)／E 福田太華「長谷雄雄紙」(部分)、全て国際日本文化研究センター蔵

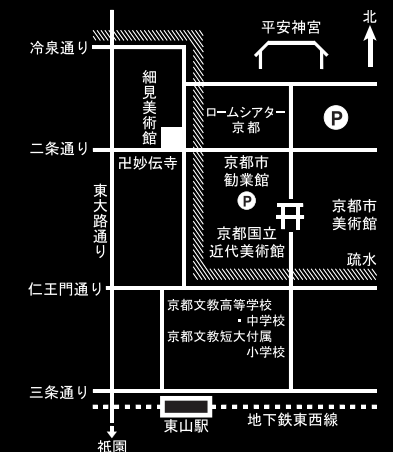


D



E

●市バス「東山二条・岡崎公園口」下車、徒歩3分。
●市バス「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車、徒歩5分。
●地下鉄東西線「東山」駅下車、徒歩10分。
ご来館には公共交通機関をご利用下さい。



細見美術館

京都市左京区岡崎最勝寺町 6-3

TEL 075-752-5555

<http://www.emuseum.or.jp>